

学長室のスタートとプロジェクトチームでの検討，そして今後の展開

この4月から学長室がスタートしました。埼玉大学の特徴を反映したガバナンス強化策の一つです。学長室はこれまでの戦略企画室と秘書課を一体化し、埼玉大学の将来構想など、大きく戦略的な構想を意識しつつ、その時々課題に対して、プロジェクトチームやワーキンググループを期間限定的に構成、役教職協働によって課題を解決していくものです。8月1日現在の学長室の構成員は、学長、4人の理事、4人の副学長、2人の監事、さらに3人の戦略企画担当職員、5人の秘書担当職員です。

PT、WGの設置と検討状況

学長室に設置されている現在のプロジェクトチーム（PT）、およびPTの下に設置されているワーキンググループ（WG）は以下のとおりです。

学長室プロジェクトチーム等一覧

プロジェクトチーム名	設置年月	プロジェクト概要
1. 強化戦略PT（強化戦略会議）	平成26年4月	平成25年度に設置した「強化戦略会議」の機能を引き継ぎ、本学における強化戦略に関する事項を、全学的立場から協議する。
1-1. 特別経費（機能強化分）検討WG	平成26年5月	平成25年度に採択された国立大学改革強化推進事業を更に強化する事業計画案について、27年度概算要求での検討をする。
1-2. 国立大学改革補助金（特定支援型）WG	平成26年5月	平成26年度国立大学改革強化推進（特定支援型）について、若手教員の年俸制による前倒し採用の基本的考え方、採用可能数などを検討する。
2. 年俸制導入検討PT	平成26年4月	平成26年度より本格導入予定の年俸制の給与体系や業績評価方法・基準等について検討を行う。
2-1. 年俸制の実施に伴う業績評価WG	平成26年4月	年俸制実施に伴い導入する業績評価制度について検討をする。
3. グローバル化推進PT	平成26年4月	本学のグローバル化推進の方策について、関係者による検討・協議を行う。
3-1. スーパーグローバル大学等事業WG	平成26年4月～8月	平成26年度公募の「スーパーグローバル大学創成支援」申請のため、関係者による検討・協議を行う。
3-2. 世界展開力強化事業申請WG	平成26年4月	平成26年度公募の「大学の世界展開力強化事業～ロシア、インド等との大学間交流形成支援～」申請のため、関係者による検討・協議を行う。
4. 認証評価等に関する検討PT	平成26年4月	平成28年度に受ける機関別認証評価に向けて、その対応や準備について全学的な立場から検討を行う。
5. IR室設置準備PT	平成26年7月	IR室設置に向けて、全学的な立場から検討を行う。

第1の強化戦略PTは、平成25年度国立大学改革強化推進事業として採択された埼玉大学の強化戦略「学部の枠を越えた再編・連携による大学改革 ～ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化～」を着実に推進するためのものです。埼玉大学の改革の4つの柱である研究力の強化、理工系人材育成の強化、人社系人材育成の強化、教員養成の強化はいずれも計画通りに順調に進んでいます。

強化戦略PTでは、平成26年度の国立大学への改革支援経費として、従来のものに加え、新たに平成27年度概算要求特別経費（機能強化分）、および平成26年度国立大学改革強化推進補助金（特定支援型）の二つが追加されたことから、その両者にも申請すべく、PTの下にWGを設置して検討を加えています。

特別経費（機能強化分）WGについては、「学内外協働による、社会で活躍する理工系博士人材の育成機能強化」を構想し、実務に精通した地域企業人の登用等、埼玉大学と産業界・官界・金融業界との双方向コミットメント、ならびに理工学研究科と人文社会科学研究科の協働に基づく文理融合型教育の実践により、社会で活躍する理工系博士人材の育成強化を、埼玉大学の更なる機能強化の一つとして進めることとして、文部科学省との意見交換に何回か臨みました。反応は好意的であったものの、文部科学省の基本的考え方として大学改革補助金を得ている大学には特別経費（機能強化分）は付け難いことがあったため、機能強化分での要求は受け付けられなかったものの、特別経費（プロジェクト分）での要求を促され対応しています。

一方、平成26年度国立大学改革強化推進補助金特定支援型「優れた若手研究者の採用拡大支援」については、各部局との調整を行いつつWGにて検討を行い、研究力強化に向け前倒しで10人の若手研究者を雇用すること、本学の年俸制対象者の基本的な考え方に整合させるため、あくまで研究力の高い若手教員（研究者）を対象とし、テニュアトラック教員に準ずる教員として位置づけることで申請を行っています。

第2の年俸制導入検討PTについては、業績評価WGとともに、年俸制の基本的考え方、適用対象者カテゴリー、給与体系、業績評価方法等について検討を行うとともに、文部科学省との意見交換を重ねて原案を作成し、全学運営会議および各教授会において説明を行いました。今後は、平成26年10月より承継職員への本格導入を予定として、然るべき手続きを経ていきたいと思っております。

第3のグローバル化推進PTについては、平成26年度公募の「スーパーグローバル大学創成支援」（結果は残念ながら「不採択」）、および「大学の世界展開力強化事業

～ロシア、インド等との大学間交流形成支援～」に申請のため、WG を主として検討を行った後、埼玉大学のグローバル化推進の戦略や方策について、鋭意検討を進めている段階です。その結果については、第4の認証評価等に関する検討 PT、および第5の IR 室設置準備 PT の検討状況・結果とともに、改めて発信したく思います。

学長室研修生の配置

学長室においては、2014年7月1日から、若手事務職員から選ばれた研修生2人が1.5日/週、兼務しています。その目的は、若手職員の方々に、担当部署の仕事以外に全学の動きをもっと知り、経験を積んでもらって、プロフェッショナルな職員としての自覚を持ち、今後の役教職協働に役立ててもらうことにあります。まだ試行錯誤の段階ですが、学長室会議や全学運営会議への出席、議事録の作成と報告、あるいは政策文書等の要旨作成、統計データ分析と埼玉大学に関わる考察、レポート作成とプレゼンテーションなど、今後につながる経験をしてもらっているものと思っています。

今後の学長室の展開

私が学長に就任し、新たに学長室をスタートさせてから早4ヶ月半が過ぎました。学長室のメンバーに支えられて、PT や WG の設置を適切に、かつ迅速に行い、議論もしっかり行って成果を出しつつあると思います。埼玉大学をダイナミックに動かしているという実感もあります。ただ、理事と副学長、戦略企画担当と秘書担当の分担と協働の明確化、権限と責任の付与などの実現は未だに途上であり、無駄や混乱があることも否めません。チームワーク機能の強化を一層進め、真の役教職協働を実現したく思います。その際、目的を明確にしたプロジェクトの遂行によるチームワーク作り、役教職協働の具体化も一法です。例えば、埼玉大学の将来のガバナンスを考慮して学長室に学長補佐（教員）を加え、その学長補佐を中心に関係職員を加えた課題解決型教職協働プロジェクトを導入することや、理事・副学長・学長室職員等が協働して目標毎に IR（データ収集・分析）を行い、第3期中期目標・中期計画を策定するとともに、埼玉大学の新戦略プランを策定するなど、現在、いろいろな仕掛けを考えているところです。

学 長 山口宏樹